

後志圏域での医療介護連携事業を通して見えた課題と今後の展望

北海道 後志地域リハビリテーション広域支援センター
後志つながるネット(医療介護連携事業班)

リハケア学会2014年・札幌 2014.05-10.03 学会発表資料を一部修正・追加

①

医療連携推進事業の概要

平成24年度～平成26年度まで

【北海道】
北海道の補助事業である医療連携推進事業が圏域ごとに21団体で3年間の事業として実施

【後志圏域】
後志地域リハ広域支援センターへ委託

【後志地域リハ広域支援センター】
後志つながるネット(医療介護連携班)が企画・運営

②

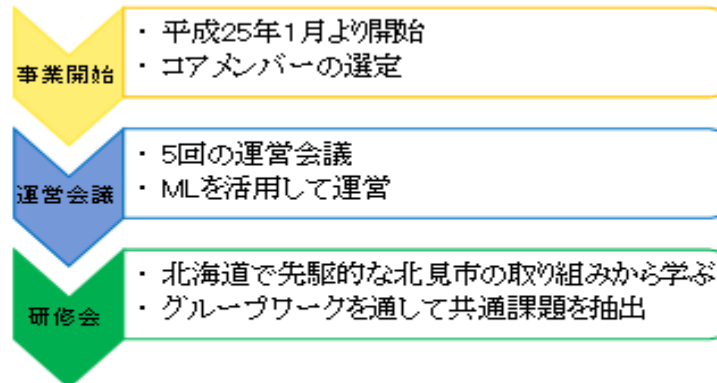
後志圏域の概要

- * 面積 : 山梨県程度(4305.83平方キロメートル) 全国7位
- * 市町村数: 1市13町6村 全国1位
- * 人口 : 約22万人
(うち圏域北西部に位置する中核都市 小樽市約12万人)
- * 高齢化率: 30.9%(平成22年国勢調査)



③

平成24年度事業 ～圏域での共通の課題とは！？～



課題 : 「入退院時の連携」「顔と顔の見える関係」について
対策方法: 参加者と共に地域課題を解決する(検討会、交流会)

④

平成25年度事業 ～入退院時の連携、顔と顔の見える関係～

●運営会議

10回開催(月1回程度)

●研修会 ～入退院時の連携に向けて～

①入退院時に必要な情報と連携について(参加者96名)
事例発表(2病院の連携室)、グループワーク



②入退院時における多職種連携の課題(参加者76名)
K法を用いたグループワーク

③病院と地域のシームレスな連携に向けて(参加者166名)
講演:宇都宮 宏子氏(在宅ケア移行支援研究)



●交流会 ～顔と顔の見える関係に向けて～

後志圏域で活躍する多職種2名がパネリスト(108名参加)
各テーマに自由参加し交流

- 「救急の医療を語る」
- 「連携を語る」
- 「働き方語る」
- 「在宅ケアを語る」



⑤

平成26年度事業 ～入退院時の連携促進、地域課題探索～

●交流会の開催 ～顔と顔の見える関係に向けて～

後志圏域を3つに分けた地域から発表と交流会(参加者60名)



●ガイドブック作成事業 ～入退院時の連携促進～

後志医療・介護事業所の窓口等の調査・冊子作成

- ・医療機関等(病院、歯科、薬局)約400か所
- ・介護施設、事業所等 約250か所



●事例検討会 ～地域課題探索～

看取りの事例検討会(参加者80名)

～ご家族も参加した事例検討会～

- ・病院から在宅へリレー事例検討会
- ・医療機関(主治医、NS、OT)
- ・介護機関(CM、訪問、訪問浴、DS)



⑥

補助事業終了後の活動(H27年度～)

【事業方針】

各事業を実施している既存の団体、組織と連携して事業を展開していく

【運営メンバー】

- ・医師、歯科医師、薬剤師、退院調整看護師、MSW
- ・訪問看護師、セラピスト(OT・PT)
- ・介護保険課、俱知安保健所、岩内保健所

●交流会 ～後志圏域の医療介護関係者の連携促進のために～

後志圏域から医療介護の多職種が参加(参加者119名)



後志保健医療福祉圏域連携推進会議、おたる地域包括ビジョン協議会とコラボ開催

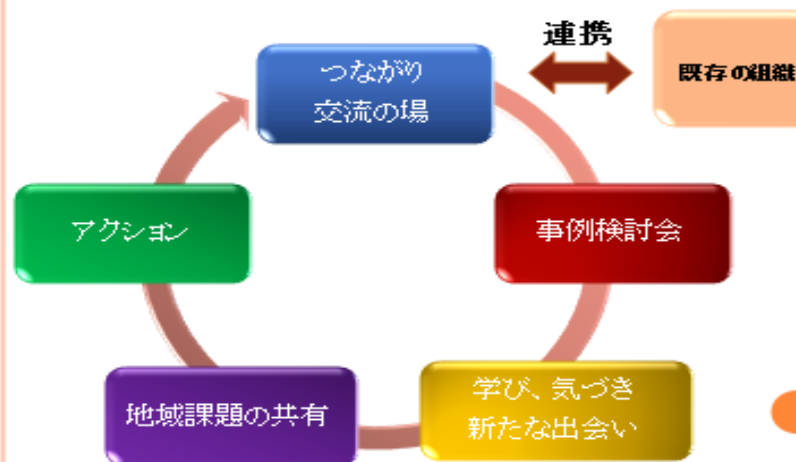
●事例検討会 ～地域課題探索～

「後志圏域内での多職種連携」(参加者101名)
山麓地域の実情と小樽地域との連携について



⑦

後志つながるネット ～今後の事業活動と展望～



⑧